

第三回企業活性化研究分科会・議事録

<第三回 2007年9月8日 時間：13：30～17：00 於：専修大学(神田校舎)7号館>

1. 参加者：太田、山本、井端、古山、大野、飯高、渡辺、大柳、星野、木村、小島、森井、菅原、宮川

2. テーマ：継続企業概念に関する論文の検討 No.2

3. 討議内容

3.1 国田著「継続企業の前提と財務諸表の質的特徴—IASC フレームワークと FASB 概念フレームワークの比較—」について

- ・報告者：山本洋信
- ・配布資料：レジュメ 6 枚
- ・報告内容

本論文に基づき、まず IASC フレームワークと FASB 概念フレームワークの比較検討の説明をおこない、続いてその中でそれぞれの各論点についてひとつひとつ詳細に説明し、2つの異なる継続企業の前提を報告した。

- IASC フレームワークと FASB 概念フレームワークの会計報告の比較検討について
- IASC 財務諸表の目的と FASB 財務報告の目的の比較検討について
- 会計情報の質的特徴の比較検討について
- 基礎となる前提の検討について
- 継続企業の前提と財務諸表の質的特徴の検討について

3.2 友杉著「ゴーイング・コンサーン監査の到来」と「継続企業の前提に関する開示について」公表について

- ・報告者：大柳康司(専修大学)
- ・配布資料：レジュメ 5 枚
- ・報告内容

本論文に基づき、はじめに日本におけるゴーイング・コンサーン監査のはじまりや発展、コーポレート・ガバナンス体制の成立など時代背景を説明し、ゴーイング・コンサーンの定義や監査との関係を報告した。つぎに、日本公認会計士協会の監査委員会報告第 74 号についてまとめ、付け加えて「会計処理ハンドブック」をもとに継続企業の前提の開示について体系的に報告した。

- ゴーイング・コンサーン監査の必要性について
- コーポレート・ガバナンス体制の確立について

- 二重責任の原則の明確化について
- ゴーイング・コンサーンの定義について
- ゴーイング・コンサーンとリスクマネジメントの関係について
- ゴーイング・コンサーンと追記情報について
- ゴーイング・コンサーン監査の証明機能と説明機能について

3.3 山崎著「会計および監査における「ゴーイング・コンサーン」問題」について

- ・報告者：渡邊繁生
- ・配布資料：レジュメ4枚
- ・報告内容

本論文に基づき、会計・監査制度での制度化が検討されている「ゴーイング・コンサーン」問題について、すでに制度化が進んでいる米国の会計監査基準および国際会計基準の国際監査基準の規定を踏まえて会計と監査の問題について報告した。

- 会計における「ゴーイング・コンサーン」問題と経営者の責任について
- 監査における「ゴーイング・コンサーン」問題と監査人の責任について
- 継続能力に関する重大な不確実性について
- 国際会計基準・国際監査基準の問題点について

3.4 永見著「ゴーイング・コンサーン問題におけるリスク・不確実性および著しい疑念」について

- ・報告者：星野敏之
- ・配布資料：レジュメ3枚
- ・報告内容

本論文に基づき、ゴーイング・コンサーンの問題点である不確実性やビジネス・リスクとの関係について著しい疑念という観点からそれらの関係をまとめ報告した。

- ビジネスリスク概念と不確実性について
- ゴーイング・コンサーン問題におけるリスクと不確実性について
- 監査人の評価について

4. その他

今後の研究会の方向性として、ゴーイング・コンサーンをビジネス・リスクにどのように結びつけるかを今後の検討課題として提案されました。

(文責：宮川宏)